【第九十七号　二〇一三年　一月　五日発行】

福音の園だより

平成十八年度「高年齢者雇用優良事業所　協会会長賞」受賞
TBSラジオ『メイコのいきいきモーニング』取材紹介

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定
３５０－００１６　埼玉県川越市木野目一八七八番地一
特定非営利活動法人　**福音の園・埼玉　事務局**
☎０４９－２３０－１１１１（FAX２３０－１１１２）

福音の園®、Gospelgarden®は有限会社シャロンの商標

ご家族の声

再び元気を取り戻して、

お世話になります。

今週二六日に、舅は九七歳のお誕生日を迎えます。昨秋、病気入院しまして、一時は地上での暮らしに終止符が打たれる時期が来たかと覚悟しました。貴園皆様のご尽力により、再び元気を取り戻し、新しい年を重ねることが叶いました。

（中略）。これからはますます手がかかるようになるかと思われます。ご苦労をお掛けいたしますが、引き続き宜しくご配慮下さいますよう、お願い申し上げます。

（Ｍ・Ｍ）

【註】当園・重度化指針説明

排尿困難から「膀胱炎」で入院されたＭさんが、尿道カテーテルを装着して退院・貴園されました。「二週間に１回」泌尿器科医師の往診処置によって、**『地域の力を借りながら、最期まで生き甲斐を支え続ける』**、今まで通りの生活を継続しておられます。

新年に寄せて

変われるのは自分と未来

グループホーム 福音の園・川越　ホーム長　杉澤　卓巳

『「変えられないのは他人と過去。変われるのは自分と未来」という名言があります。認知症状進行に伴い自宅（家庭）での生活が困難になって入居された皆様を、お世話しやすいように変えようとするのは介護ではない。介護スタッフの何倍も生きて、生活習慣や生き方（信念）の出来上がった人生の先輩を変えることはできない。熟成された人格を持ち、人生の終着点に向かっている先輩達。ただ認知症状によってその人格（生活習慣）が歪められてしまったために時として「問題行動だ！」と観察されてしまうだけなのです。この「視点」（座標軸）に立って**「画一的な支援の押し付けにならないように、お一人ひとりの生活作りのパートナーを目指します」**が当園・基本方針の一つ。パートナーに徹することができるように「自分」を変えようと努力するところから介護プロの第一歩が始まります。』

（二〇一一年一月五日発行　第七十三号より抜粋）

※　※　※　※　※　※　※

「パーソン・センタード・ケア」とは、お一人ひとり、その人にあったケアをするという意味です。筋道立てて、理屈で相手を変えようとするのは「本末転倒」。認知症という病気がもたらした人格（生活習慣）なのだという認識と優しさが必須となります。退職者から届いたお便りの**「又、心作りをしながら、少しでも向上できるように思っています」**が心に留まり、新年号に掲載しました。

「パートナーに徹することができるように自分を変えようと努力し続ける」二〇一三年としたい。

職員の声 ― 「職場内実習報告書」より

ホームでの生活を、自分流に上手に使って

〇月〇日（月）▽Ｈ・Ｙさん　短時間にお昼寝された り、居室でのんびりされたりと、ホームでの生活を自分流に上手に使っておられる。ペースを乱さないようにお手伝いしていきたい。

▽Ｎ・Ｍさん　午前中の「紙芝居」を見ていた際、涙を浮かべていらした。暖かい心を感じた。

〈ホーム長より〉職場内実習も１９日目、ご苦労様でした。Ｈさん「生活を自分流に上手に使っておられる」は、当園が目指す**「お一人ひとりの『生活作り』をお手伝いします」**です。自宅で過ごしておられた生活を取り戻しつつあり、ホッとしました。

退職者の声

拝啓。大変お忙しい中、実務実績証明書ありがとうございました。又、「園だより」、ありがとうございました。少し、勉強しながら、体調をみながら、又この仕事ができたらと願っているところです。子供の高校見学や、実家の父、母の用事等、久しぶりの時を過ごしています。又、心作りをしながら、技術や知識を学びながら少しでも向上できるようにと思っています。ありがとうございました。（Ｓ・Ｓ）

来訪歓迎

ゴスペルシンガー・チヤコ様（さいたま市）

御礼

玉ねぎ・かぼちゃ　〇〇農園様（北海道共和町）

新年おめでとうございます

迎えました２０１３年も、確かな支援技術に基づいた**「優しさ」**と、福音に基づいた**「希望」**をお届けできるように専心してまいります。**福音の園・川越　職員一同**